

# 公・民が同じ夢を見て、同じ船に乗る

## ―公共空間を活かしたまちづくりシンポジウム開催―

門真市立公民館で国づくりシンポジウム「これからの公共空間・まちづくり」が開催された。

前半は、建築家で東北

芸術工科大学教授の馬場正尊氏が講演。消滅可能都市から住みたい街へと変貌を遂げた他市の事例を紹介。氏が提唱するエリアリノベーションは、公共空間に気づきを与え、



馬場正尊氏の講演を熱心に聞き入る参加者

まちの価値を高めていくのであり、空間をテーマや用途に機能分離するのはなくミックスして

「都心再構築プロジェクト」をすののだと解説。

後半は、門真市総合計画審議会の会長で大阪府特別顧問の橋爪紳也氏、馬場氏、筋原章博大阪市長、港区長、摂南大学稲地秀介准教授、宮本一孝市長が一堂に会してパネルディスカッションを実施。

筋原区長は、前職の大

正区長時代に水上ホテルやクルージングなど河川敷を有効活用した「大正リバービレッジ」構想で、「街を動かす人がいて、まち全体の熱量が上がる」と、市民と行政が同じ夢

を見る醍醐味を語った。

稲地准教授は市との連携活動を報告。馬場氏は、「八十場十メディア」がまちづくりの重要と言及。

門真のものづくり産業に着目した地域共生のアイデアも出た。宮本市長は、「住民同士が情報を共有し、役所のセクションリズムをシャッフルする仕組みづくりが大事」など、3時間はあっという間。約160人の参加者は誰も席を立たなかった。